



教えて!


# 市立病院

vol.56

市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

テーマ

脳梗塞は、早期受診が重要です



今月のドクター  
脳神経外科長  
佐々木徹 医師

脳神経外科で扱う疾患は脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、水頭症、けいれんなど多岐にわたり、それぞれ外来・入院加療、手術を行っています。

やはり症例の中心は脳卒中で、なかでも脳梗塞が大半を占めています。急患に対し速やかに入院・急性期加療を開始することはもちろん、その後の二次予防（内服加療）、後遺症に対するリハビリ、さらには退院後フォローまでが当科の役割となります。さらに昨今の高齢化に伴い、例えば後遺症のため一人暮らしが不可能になる人、在宅可能だが何らかのサービスを必要とする人など、退院後の社会的支援が求められる症例が増えています。これらに対し我々は医師、看護師はもとよりリハビリテーション科、ケースワーカー、薬剤部、療食科など一丸となって対応しています。

また、最近では脳梗塞に対する急性期血栓溶解療法（t-PA療法）にも積極的に取り組んでいます。これは、発症 4.5 時間以内に強力な血栓溶解剤を投与し、梗塞

に陥りつつある脳組織を救済する治療です。できるだけ早く血流を再開することが重要ですので、顔や口の麻痺、片方の手足のしびれや麻痺などの症状がでたら、すぐに受診することをお勧めします。

加えて、早期発見の見地から当院では脳ドックも行っており、昨年度は 143 人、今年度も 4 月から 9 月まで 64 人が受診し、好評を得ています。健康意識が高い人が受診するので実際に病的所見が発見されることは少ないのですが、結果説明の際には脳卒中の予防についてできるだけ分かりやすくお話ししています。

11 月 25 日(土)にすこやかセンターで開催する市民公開セミナーでは、実際の脳梗塞の治療、予防についてお話しする予定です。興味のある人はぜひお越しください。